

6次産業化で地域を活性化し、所得向上 ～農事組合法人あっとふぁーむ黒目～

経営体の概要

現在：平成28年度
 基幹作物：水稻（WCS含む）、二条大麦、裸麦、大豆、ソバ、トマト（加工用）、
 サツマイモ、エゴマ、アスパラガス 等
 経営面積：22.0ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

事業により安定的な用水供給が可能となったこと、耕作困難な農地が増えてきたことから2地区の農家により、黒目上宮農組合を平成16年に設立。平成26年に法人化し、家庭的（アットホーム）な経営を意識して命名。米・麦・大豆を中心とした生産体制から米価の下落に伴い、新事業を探索する中で加工用トマトや大豆の加工品などの6次産業化の取組と新規作物としてエゴマ、アスパラガスの作付けに取組むことにより農業収益の向上を図り、農業経営の安定化に努めている。

営農改善のポイント

①作物の変化

法人化設立時は、米・麦・大豆の土地利用型が中心とした経営であったが、米価の下落に伴い、新規作物への取組が必要と考え、最近では加工用トマト、さつまいも、そば、エゴマ、アスパラガスなどを多品目に取組、リスク分散することで農業経営の安定化を図っている。



エゴマの栽培

②6次産業化

作物生産だけでは経営が安定しないことから組合員で何をすべきか検討し、昔ながらの品種（甘みは程々で青臭く感じるもの）をほ場内から完熟後に収穫したトマトによるトマトケチャップの製造・販売や黒大豆による味噌の商品化に向けた取組など6次産業化に取り組み地域の活性化を図るとともに所得向上を図っている。また、トマトケチャップの容器については、消費者に選ばれるような工夫を組合員間で相談して行うなどの販売努力もしている。



アスパラガスの栽培

③担い手の育成

当法人は、農業に関心を持たせるために早い段階から後継者を農作業に出役するように土日にトラクターの運転をお願いしたり、組合員に納得をしていただきながら高い時給を支払うなどの取組をしてきた結果、後継者が新たな担い手として育成されている。



トマトケチャップの製造・販売

事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業
 関係市町：出雲市
 受益面積：3,728ha
 事業期間：平成17年～平成28年
 事業目的：用水改良
 主要工事：用水路の新設・改修49.7km、揚水
 機場等の改修3ヶ所、汐止堰新設1
 ヶ所、水管理システムの整備一式 他

位置図（島根県）



斐伊川沿岸地区

<局問い合わせ先>

中国四国農政局
 農村振興部農村環境課
 電話：086-224-4511
 （内線：2562）

（平成28年度調査時点）